



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2015.5

No.373

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



出現率の変化 (カッコウやホトギスと托卵相手の場合)

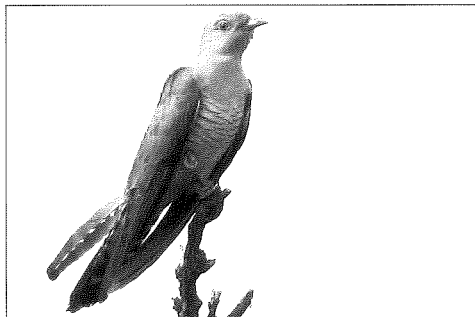
山口 芳邦(新座市)

私が担当している坂戸市高麗川探鳥会は 1986 年に始まりました。記録を見ると、夏期の 6 月の探鳥会では 2005 年まではカッコウがよく確認されていました。一方、1997 年まで記録のなかったホトギスが 1998 年から確認されるようになり、2006 年以降はカッコウにとって代わりました。原因はわかりませんが、今回、県内の探鳥会ではどうなっているか調べてみました。次ページのグラフをご覧ください。

ホトギスの増加に関しては、ネット上やその他に、明確な記述を見つけないことができませんでした。現時点ではあまり顕著な現象になっていないということでしょうか。

ホトギスの托卵相手は主にウグイスと言われています。ウグイスの出現率は**グラフⅡ**のように増加していますが、関係があるのでしょうか。ホトギスが増えれば、托卵相手のウグイスは減少してもよさそうですが、探鳥会の記録ではそうなっていません。何故でしょう。これについては、托卵された場合、ウグイスは卵を巣外に捨てたり、巣を放棄したりの托卵拒否行動をとらないが、関東地方低地などでは4月に繁殖を始めて、カッコウなどに比べ遅くやって来るホトギスが6月に托卵を始める前に雛を育てることができること、また、托卵前にホトギスから巣を守り、托卵を妨げる行動をとるとの研究報告があります。(「ホトギスの托卵に対するウグイスの対抗手段 - リスクの変化に対応した防衛行動の調節 -」平成 23 年国立科学博物館)

カッコウの減少 (グラフⅠ) は埼玉県だけではないようです。カッコウの托卵相手は、主にオオヨシキリ、モズ、オナガなどでしょ



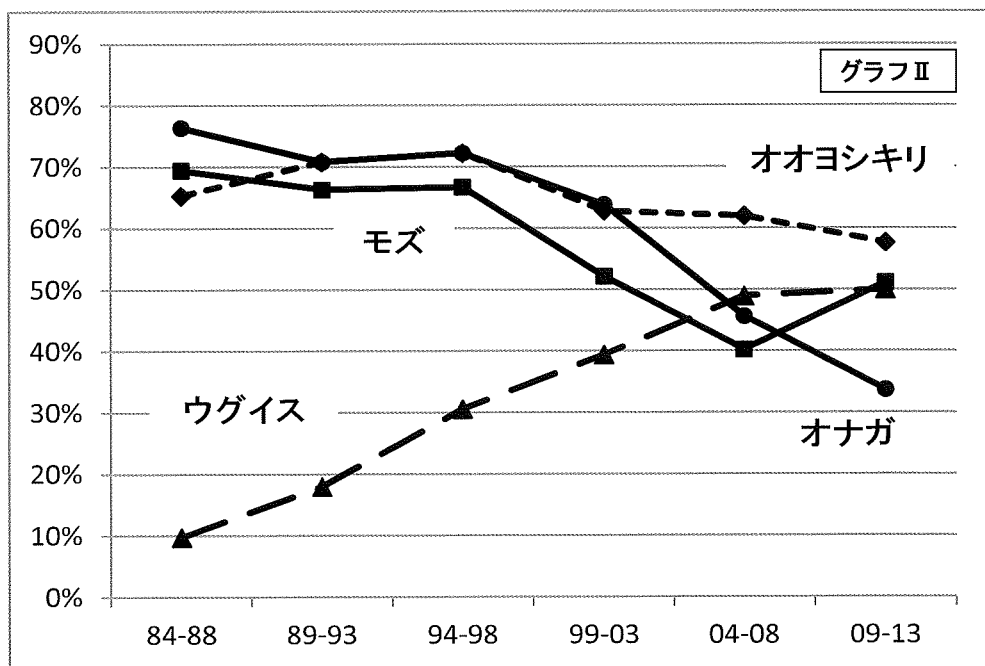
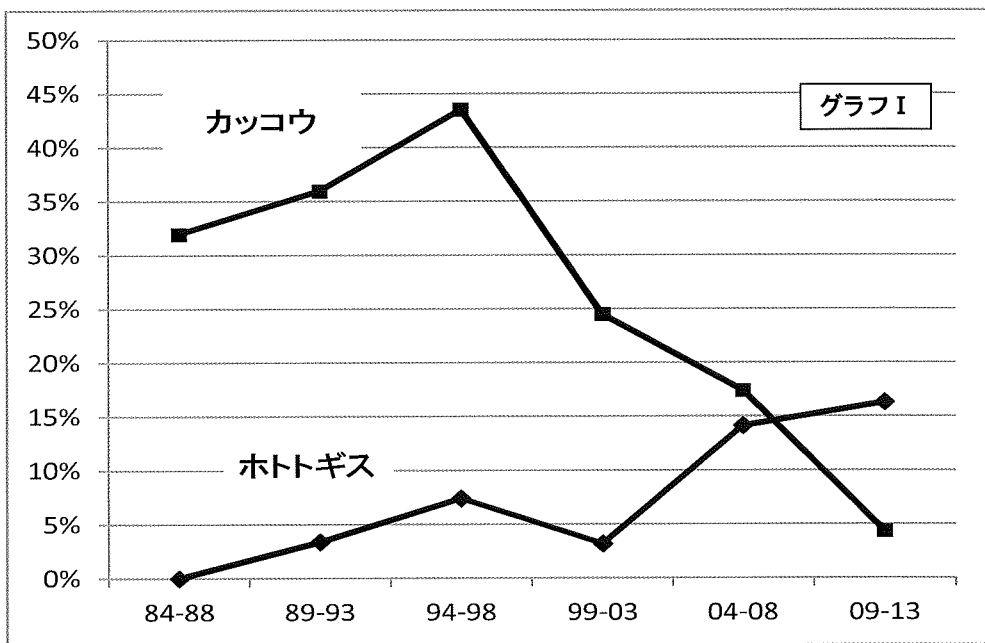
カッコウ(写真提供 Y.E.)

うか。どれも出現率は減少傾向にあります。

特に、オナガについては「17 探鳥地」について年間を通してみるとその出現率の変化は次ページの夏期(5~9月)の記録より大きく、84~88年の67%から09~13年は17%に、それも直線的に減少しています。幸い2014年前半の探鳥会では22%で下げ止まったかには見えますが……。

カッコウがオナガに托卵し始めてからオナガが減少したという県外の報告がネット上にみられましたが、私の近隣では、ハシブトガラスの増加と関係があるのではと推測しています。ハシブトガラスが急増した時期に、オナガなどの巣からヒナを奪うハシブトガラスが目撃されるようになり、一時期、私の近所ではオナガの姿がまったく見られなくなりました。その後のハシブトガラスの減少とともに最近では徐々にオナガが戻ってきて、数も増えてきました。埼玉県内の探鳥会記録でオナガはこれからも減少していくのか、或いは回復していくのか、注視していきたいと思えます。

この記事を読まれる頃には、当会のホームページに、1984年から2013年までの**30年間**の埼玉県内探鳥会(26探鳥地1971回)で記録された219種についての**記録が掲載**される予定です。鳥種毎に、今回と同じ5年ごとの出現率の変化のグラフ、月別出現率グラフ、その他集計表がついています。グラフに見られる変化は県内の全体的な傾向を表していると考えられます。その原因、或いは皆さんのフィールドとの違いなどを考えてみるきっかけになればと思います。



※グラフは、1995年以前から現在まで継続している埼玉県内26探鳥地のうち、夏期に実施記録がある17探鳥地の探鳥会記録（5月～9月547回）を5年間毎に集計した出現率です。「26探鳥地」名については『しらこぼと』355号をご覧ください。

※「17探鳥地」：さいたま市三室地区、さいたま市秋ヶ瀬公園、さいたま市大宮市民の森、さいたま市民家園周辺、加須市渡良瀬遊水地、滑川町武蔵丘陵森林公園、寄居町玉淀河原、狭山市入間川、熊谷市大麻生、坂戸市高麗川、上尾市丸山公園、川越市西川越、長瀨町宝登山、東松山市物見山、北本市石戸宿、本庄市坂東大橋、蓮田市黒浜沼

「地名の鳥 II」～青森県の巻～

石光 章（所沢市）

地名の鳥を探して、北海道から津軽海峡を渡り青森県に入ります。津軽海峡を渡る鳥のルートは幾つかありますが、良く知られているのは北海道・松前半島の白神岬と青森・津軽半島の龍飛崎を結ぶルート。その龍飛崎を日本海沿いに少し南下した北津軽郡中泊町に燕崎(ツバクラザキ)があります。ツバクラはツバメの異称で、ツバクラメ、ツバクロも同じ。ここの海岸の洞窟にイワツバメが棲んでいたことから名付けられたと伝えられています。燕崎は小泊十二景の一つに数えられる景勝地です。

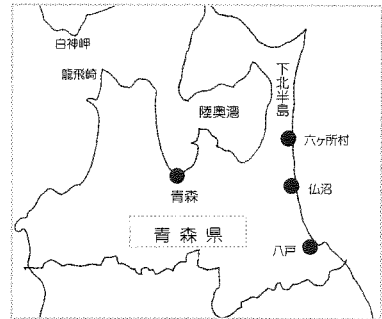
同じ北津軽郡には鶴田町(ツルタマチ)や鶴泊(ツルドマリ)の地名もあります。「鶴が飛来してきた場所であったことに由来する」と町誌に記載されています。津軽の里にもツルが安住していました。

県都・青森市に鶴ヶ坂(ツルガサカ)がありますが、この地名の由来にはチョットしたストーリーがありました。元来この地は津軽坂と呼ばれていたそうです。それがツガルの類似音ということでツルガとなり、目出度い鶴を入れた賀名として鶴賀坂に。さらに簡略化されて鶴ヶ坂になったとか…。言葉遊びのような変遷が面白い地名です。

東北新幹線八戸駅の南西に位置する南部町に変わった地名があります。鳥舌内。チョウシタナイと読みますが、チョウシタネエともいうそうです。由来には諸説あります。アイヌ語由来説では元はチャシタナイというアイヌ語で、チャシ(砦、館)、タ(の)、ナイ(沢)つまり「砦のあった沢」の意味と解説しており、いかにも尤もらしいのですがまとも過ぎて面白味はありません。他には、一帯の丘陵の形が鳥の舌のように見えるからとの説もありますが、最もユニークなのは、昔奇声を発する鳥を撃ち落としたり、鳥に舌がなかったことにちなむとの説です。舌切雀民話との関連を想像したくなる意味ありげな由来話で、興味を惹かれます。ただし、何の鳥かは不明です。

下北半島の中ほど、上北郡横浜町に雲雀平

(ヒバリタイラ)があります。地名の由来を明示する資料は



見つからないようですが、陸奥湾に面した丘陵地帯で草原が広がっている風景から、ヒバリが豊かに囀ることこの地名になったと想像出来ます。この地に今、風力発電事業が計画されています。風力発電といえば、気になるのが風車によるバードストライク。現在はまだ環境アセスメントが進められている段階のようですが、近い将来風車が林立してしまうのでしょうか？ 火力、原子力に代るクリーンエネルギーとして風力が重要とはいえ、雲雀平の地名に風力発電は似合わない気がします。

雲雀平と背中合わせの太平洋側にある六ヶ所村。核廃棄物の処理問題で注目される村ですが、ここに鷹架(タカホコ)という地名があります。鷹架というのは本来は鷹狩りの鷹を停まらせておく木のことで、地名の由来は源頼朝です。頼朝が召上げた名馬『生食(いけづき)』の産地がこの地で、その馬の背丈が鷹待ち場の鷹架の丈であったことにちなむのだとか。頼朝でハクをつけようとしたのでしょうか、良く出来た話ですがいささか作り過ぎの感が否めません。オオセッカの世界最大の繁殖地として知られる仏沼は鷹架の南約10数kmにあります。

青森県には他にも、鶏ヶ唄(トリガウタ)、鶴喰(ツルバミ)、鴨ノ首(カモノクビ)等の変わった地名がありますが、由来が不明なので名前のみを紹介させていただき、青森県の巻を終わります。

最後に駄作…「陸奥の津軽の里の鶴賀坂 鶴舞い降りて人と棲み合う」

●ナベヅル



英名 Hooded Crane

学名 *Grus monacha*

分類 ツル目ツル科ツル属

2014年12月13日午後1時ごろ、山岸幹夫さん(未入会の方)により、深谷市内で写真撮影されました(上写真)。当委員会は、1997年12月-98年1月の行田市での当県内初記録(本誌1998年2月第166号)、2001年4月の上尾市での2例目(同じく2001年8月第208号)に次ぐ、3例目として記録することとしました。

本個体は、①三列風切羽の間からのぞいて見える初列風切羽が褐色であること、②初列雨覆羽も同様に褐色であること、③左側だけ、目の上・頭頂寄りの部分に赤い色がわずかに見られることなどから、まったくの幼鳥ではないものの、成鳥ともいえない若鳥と思われます。なお、③の事項ですが、その後わずか10日ほどで頭頂が左右対称に一樣に赤く色づき、日々成熟が進んでいたという印象を受けました。

本個体の終認日は不明ですが、少なくとも2015年3月14日までは、ほぼ同所で姿を確認されています。冬作のない刈田と適当な川の流れがあつて、良好な餌場・ねぐらを確保できたことが今回の越冬につながったものと考えられます。

なお、当委員会は、希少種が滞在している間は、それを公表しないことにしています。この件は新聞等でも報道されましたが、やはりその方針で対処しました。

小さな発電所から

大森桃子(さいたま市)

あれ? 最近、そんなに寒くないね。空の色もなんか違う。近所の梅も咲き始めたね…そんなことから、春の到来をふんわりと感じていた。それが変わった。太陽光発電を始めてからである。毎日、発電量を記録しているが、その数値が日毎に増えてゆく。冬の間は7~8kWhだったのが、9になり10になり、二ケタが当たり前になる。今年の最高値を更新した時、太い筆で墨黒々と書かれた「**一陽来復**」という言葉が、頭の中に「どん!」と浮かんだ。力強い春の到来であった。かつて感じたことのない春のエネルギーであった。太陽光発電を始めた時、業者から「発電所の名前を付けてください」と言われた。一般家庭の太陽光発電でも、東京電力の発電所の一つとなるので名前が必要だそうだが、東電

から「埼玉第7太陽光発電所」みたいな名前を与えられるのではない。こちらに命名権があるという。ペットの名前をつける人が多いらしい。じゃあ、うちはやっぱり鳥の名前だな。あれこれ悩んで、ヒヨドリにした。正式名称は平仮名で「ひよどり発電所」。「太陽光発電がヒヨドリのように、ありふれた存在になってほしい」という願いを込めた。だから屋根にパネルを乗せた家を見つけると、なんとなく嬉しい。

気になることがある。うちの発電所で作って、余った電気は、どんなふうに使われているのだろう? 甥が昼間なのに明かりをつけて、コンピューターゲームで遊んでいる。その姿を見ると、“ひよどりブランド”の電気がこんなふうに使われていたら嫌だなと思う。幸か不幸か電気は電気、区別できない。それでもやはり、発電所経営者は言いたい。**電気は大切に。**



野鳥情報

さいたま市岩槻区高曽根 ◇1月25日、ケリ3羽、タヒバリ多数、ヒバリも多い。アオサギ約50羽が散在（鈴木紀雄）。

深谷市本田 ◇1月28日昼ごろ、「白鳥飛来地」の河原にて全身が完全に真っ白のセキレイ類1羽。嘴や足も黄褐色に色脱けしているが、虹彩は黒っぽい。付近にはセグロもハクも複数いるため、外見だけでは種類の特定はむずかしい。他のセキレイたちと飛び回ってもかなり目立つ。なかなか声を聞かせてもらえず、30分ほど観察して2度だけ、力のないかすかな「チッ」という声を発したので、個人的には「ハクセキレイ」ということに…。上流よりセグロカモメ成鳥1羽飛来。そのまま下流へ飛び去る。今季この場所にハクチョウは来ていない。コハクチョウやカモ類が集まっているところは1,000メートルほど上流に移っていて、その中にスズガモ♀1羽を見つける。キンクロハジロ♀とは頭の形が違う（榎本秀和）。

さいたま市緑区上山口新田 ◇1月28日、芝川沿いでヨシガモ♀1羽、ヒドリガモ、コガモ、ハシビロガモ♂2羽♀2羽、カイツブリ、バン10羽＋、オオバン10羽、アオサギ2羽、コサギ1羽、カワウ、オオタカ飛翔、カワセミ♂1羽、モズ♂1羽、ツグミ、アオジ、ホオジロ、オオジュリン（声）、シメなど。2月3日、ハシビロガモ♂2羽、コガモ、カワウ、バン、オオバン、セグロカモメ1羽、タシギ1羽、クイナ1羽、キジ♂2羽の争い、カワセミ♂1羽、モズ、ツグミ、アオジなど（鈴木紀雄）。

加須市浮谷の里 N36.1346 E139.6268 ◇1月29日、ノスリ若鳥と成鳥、オオタカ成鳥、アカゲラ♂、ミヤマガラス30羽±。作業している耕運機の側にハクセキレイ7羽。他にアオサギ、ダイサギ各1羽。ツグミ、シメ、ホオジロ、カワラヒワなど多数（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇2月1日、セグロカモメ1羽、イカルチドリ1羽、コ

ガモ、カルガモ、ヒドリガモ、アカゲラ2羽、コゲラ、キセキレイ、カシラダカ、アオジ、ルリビタキ♀1羽、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、エナガ、ベニマシコ♂1羽♀1羽、シメなど。ここでは久々のベニマシコに出会えた（鈴木紀雄）。◇2月11日午後、エナガ2羽、ウソ、キセキレイ、ルリビタキ♀、シロハラが落ち葉をガサゴソかきまわす（本多己秀・久文子）。◇2月16日午後3時頃、2日前の探鳥会に初心者として参加されたご婦人から、図鑑を片手に、当日見られなかった「ジョウビタキ」を見たいのだがどうかと尋ねられた。そこで、ポイントに案内。運良く♂が出現、ご婦人は大感激。帰りにはアリスイも見ることができた（菊川和男）。

北本市北本自然観察公園 ◇2月3日、枝にとまったアオサギの姿が凛々しかった。2羽のカケスが路肩で夢中に何かを食べていた。人懐こいシロハラの成鳥が1mまで近づいた。他にアカハラ、ジョウビタキ、シメ、エナガ、ヤマガラなど（長嶋宏之）。

熊谷市善ヶ島 ◇2月3日、利根川のアシ原上空でハイロチュウヒ♀飛翔（寺山聖二）。

さいたま市西区の鴨川 ◇2月4日、植田谷本の学校橋付近でセグロカモメ1羽がカルガモの死骸を啄む。普段は、学校橋の下にいたことが多いカルガモが、この時は、現場を見下ろす右岸の斜面に16羽集まっていた。他に、ミコアイサ♂1羽、トモエガモ♂1羽、コガモ35羽など。2月10日夕方、学校橋から植田谷堰の間でハシビロガモ♂1羽が早瀬を下って、寄り道探餌しながら川下へ。次にミコアイサ♂1羽、軽やかに波に乗り、すごい速さで通過するも淀みの所でストップ。潜水を始めた。この個体は、既に1ヵ月以上もこの辺りにいて、この間に風切羽が随分とボロボロに（まばらに）なってきたようだが、それでも活発に動き回っている（大塚純子）。

さいたま市緑区新宿 ◇2月6日、アシ原の水面でビンズイが水浴び。ビンズイがこんな所にいることもあるのですね（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇2月6日、

オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ、カルガモ、オカヨシガモ、バン、オオバン。アキニレの種子にアトリ約10羽の群れが2群(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区膝子 ◇2月6日、休耕田の草原にカシラダカ約50羽が隠れる。すぐ上をチョウゲンボウ♂1羽、ホバリングするが、飛び去る。ミヤマガラス約100羽の群れ(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区田島 ◇2月7日、昭和水門～さくら草水門の鴨川でヨシガモ23羽、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、オオバン、カワウ、アカゲラ2羽、ベニマシコ、カシラダカ、アオジ、ジョウビタキ、シロハラ、シメなど。左岸の竹藪にトラフズク1羽。野焼きが済んだサクラソウ自生地でもタヒバリ、ツグミなど(大塚純子)。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇2月7日、ルリビタキ♀1羽、カワセミ、シロハラ、アカゲラ、カケス、ウグイスなど。アカゲラのドラミングが迫力だった(本多己秀・久文字)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月7日、カワセミ2羽が飛びかっていた。つがい形成の時期が来たようだ。屋敷林にカラス類200羽士の群れ。中にミヤマガラス10羽十。2月9日、シジュウカラがさえずり始めた。2月19日、繁殖羽のコサギ1羽が沼の杭の上において、冠羽を風になびかせていた。2月22日、スズメの声が大きく艶っぽくなった。2月25日、エナガが白樺の皮を剥いで運んで行った。巣材に使うのだろうか? 2月27日、ハシボソガラスが小枝をくわえて飛んで行った。キジバトが巣の上で鳴いていた。営巣開始のようだ(長嶋宏之)。

坂戸市多和目 ◇2月10日午後2時30分頃、城山荘前の桜並木に、ウソ♂2羽♀1羽。桜の花芽をついばんでいた。数はまだ増えるのでは? 例年、花芽が大きくふくらむ3月10日頃まで見られる(増尾隆)。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇2月10日、チュウヒ2羽、コハクチョウ3羽、遠くにオオハクチョウ2羽、オオバン、マガモ、

オカヨシガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ♂3羽♀4羽、オオジュリン、カシラダカ、ベニマシコ♂1羽♀1羽、アカゲラ2羽、セグロカモメ、アオサギ、ダイサギ、コサギなど。クサシギが上空を「チュピー」と鳴きながら飛んで行った(鈴木紀雄)。◇2月11日午前、オオハクチョウ2羽、コハクチョウ3羽。ミコアイサ♂♀10羽ほど、♀のほうが多い。セグロカモメ第1回冬羽の個体1羽。対岸を低く飛んでいたチュウヒ♀タイプ? 1羽がアシ原のへりの小枝に降りたが、こちら側からは丸見え(榎本秀和)。

久喜市菖蒲町上大崎 N36.0519 E139.6066

◇2月12日、ミヤマガラス300羽士が田起した田圃で採餌。その中にコクマルガラス淡色型6羽、暗色型8羽を確認した(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町小林 N36.0656 E139.5785

◇2月12日、藁ぼっちの上にニュウナイズメ10羽士、スズメ50羽士が群れていた。近くの電線にカワラヒワ30羽士(長嶋宏之)。

鴻巣市境 N36.0983 E139.5440 ◇2月12日、

マガモ200羽士、ヒドリガモ200羽士、コガモ100羽士、アメリカヒドリ交雑種1羽。その他オオバン15羽が橋杭にまとわりつくように採餌していた(長嶋宏之)。

さいたま市南区曲本1丁目 ◇2月16日、チョウゲンボウ1羽、新大宮バイパスを自転車でゆっくり走行中、頭上20m程の高さをヒラヒラと飛ぶ。高速道路の防音壁を乗り越え、彩湖方面に飛び去る。チョウゲンボウ独特の飛び方が印象に残った(陶山和良)。

戸田市本町 ◇2月16日、中央通にかかる上戸田川の二枚橋の下でコサギ1羽、寒い中しきりに餌を漁っていた。黄色の足指を震わせながらのあの仕様で…。いじらしいやら微笑ましいやら、しばし見とれてしまった(陶山和良)。

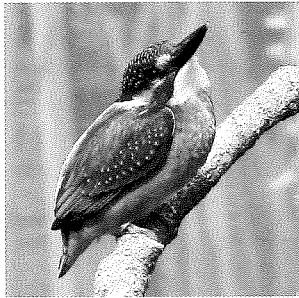
表紙の写真

スズメ目セッカ科セッカ属セッカ

寒さが多少緩んだ2月22日、目前に飛来してちょっとだけ茎に止まってくれた、冬のセッカです。
石川敏男(春日部市)



行事案内



カワセミ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。
持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月3日（日・祝）

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から境車庫行き 8:45 発のバスで「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。

担当：佐野、植平、佐藤、竹山、田邊、村上
見どころ：昨年は宇和田の小さな森にもオオルリやキビタキが立ち寄りしました。探鳥会で見られる日も遠くないのでは。カワセミやチョウゲンボウは子育てに忙しい時期です。遠くからそっと観察しましょう。もちろんシラコバトには期待です。

茨城県・浮島～小見川探鳥会（要予約）

期日：5月5日（火・祝）

詳細は3月号をご覧ください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月6日（水・祝）

集合：午前10時、JR京葉線南船橋駅前。

交通：JR武蔵野線武蔵浦和 8:52→南浦和 8:56→京葉線直通 南船橋 9:48 着。

担当：杉本、伊藤、手塚、野村（修）、長谷部、菱沼（一）、菱沼（洋）、渡邊

見どころ：今年は、潮回りにより、午前の開催です。シギ・チドリ等の春の渡り最盛期です。夏羽の華やかさを楽しんでください。お昼ごろ、現地で解散の予定。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：5月8日（金）～10日（日）

詳細は4月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月10日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：千鳥、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：爽やかな風が吹く土手を歩けばツバメが飛び交い、オオタカが飛び、河原ではオオヨシキリがさえずっているかも。野鳥の森まで歩きます。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月10日（日）

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、内田、榎本（建）、田中、長嶋、長野、菱沼（一）、星野、吉安

見どころ：南の国からやってきたツバメやオオヨシキリなどの夏鳥と、繁殖期に入って鮮やかになった鳥たちを楽しみましょう。渡りの途中の鳥とも出会いたいですね。

ご注意：今回は元荒川の川島橋左岸から歩きだして、黒浜沼（環境学習館）までの片道コースです。車で来られる方は、環境学習

館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用して下さい(川島橋まで徒歩約15分)。

中軽井沢レディース探鳥会(要予約)

期日: 5月16日(土)

詳細は4月号をご覧ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき: 5月16日(土) 午後3時~4時ころ

会場: 会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日: 5月17日(日)

集合: 午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意: 案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援: さいたま市立浦和博物館

担当: 須崎、青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、石塚、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田

見どころ: 5月の主役はキジです。あちらこちらからキジの声が聞こえる事でしょう。また、夏鳥も楽しみです。昨年はコチドリを間近で観察できました。陽射しが強いと暑くなりますので、温度調節できる服でご参加ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日: 5月24日(日)

集合: 午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通: 西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散: 正午ころ、稲荷山公園。

担当: 長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本(真)

見どころ: 入間川にやって来た夏鳥たちを探します。河川工事で様子が変わった入間川。今年もオオヨシキリやササゴイは来てくれるだろうか。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日: 5月30日(土)

集合: 午前8時40分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通: 東武伊勢崎線春日部 8:14→久喜 8:27→花崎 8:34。JR 宇都宮線大宮 7:53→久喜 8:15 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催: 加須はなさき公園管理事務所

担当: 長嶋、相原(修)、相原(友)、石川、植平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ: 爽やかな初夏の公園で、渡って来た夏鳥やお馴染みの鳥を探します。大きな声のあの鳥やラブラブのあの鳥達はもう子育てを始めたでしょうか。チョウゲンボウの親子が見られたら最高です。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日: 5月30日(土)~31日(日)

詳細は4月号をご覧ください。

IT委員会から ご案内

支部のホームページ、ご覧いただいていますか? 役に立つ情報が満載だと思います。まだの方は、ぜひ一度お立ち寄りください。

URL: <http://www.wbsj-saitama.org/>
グーグルやヤフーで、「日本野鳥の会埼玉」で検索しても、たどり着けます。

ホームページに関するお問い合わせやご意見など、お気軽にお寄せください。また、各コーナーについてのご感想などもお送りいただくと嬉しいです。IT委員会宛てのメールアドレスは、itc@wbsj-saitama.org です。

参加した探鳥会の感想、探鳥会風景の写真、野鳥や自然の写真・イラストなど、大歓迎です。「作品投稿について」をご一読ください。「投稿要綱」に色々書いてありますが、とりあえず上記アドレスにメールしていただければ、何とかできます。相談しながら、IT委員会で様式を整えて、ホームページに掲載させていただきます。



行事報告

11月30日(日) 栃木県 中禅寺湖・足尾松木溪谷

参加：40名 天気：晴時々曇

マガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ
スズガモ ホオジログモ カワアイサ カイツブリ
カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ カ
ワウ アオサギ オオバン トビ オジロワシ
コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス コガラ シジュウカラ
エナガ ゴジュウカラ カワガラス ジョウビタ
キ セグロセキレイ ベニマシコ ホオジロ (29
種) 東北道が霧で通行止めのハブニング。予定よ
り1時間遅れて足尾に到着。砂防ダムから松木溪
谷を見る。お目当てのイヌワシは飛んで来てくれ
なかった。残念。午後は奥日光の千手ヶ浜に移動
して探鳥した。遠かったけれどオジロワシを見る
事ができたし、カワガラスを近くで良く見る事が
できた。(入山 博)

11月30日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：62名 天気：晴後曇

マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ カ
イツブリ キジバト カワウ アオサギ クイナ
オオバン ハイタカ オオタカ カワセミ コゲ
ラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ
ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ
ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジ
ロ カシラダカ アオジ オオジュリン (37種)
(番外：ドバト) 枯葉が十分落ちておらず、じっ
くりと見ることは出来なかったが、ツグミ、ホ
オジロ類、ベニマシコやシメ等常連の鳥たちは勢ぞ
ろいしていた。中でもチョウゲンボウが電線に
長い間止まって大サービスしてくれて良かった。

(玉井正晴)

12月6日(土) 所沢市 狭山湖

参加：27名 天気：晴

マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンク

ロハジロ カイツブリ カンムリカイツブリ ハ
ジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ
オオバン ミサゴ トビ オオタカ コゲラ モ
ズ ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ
ウグイス エナガ メジロ シロハラ ルリビタ
キ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ カシラダカ アオジ クロジ (32種)
(番外：ドバト、ガビチョウ) この時期は、カモ
類が頻繁に入れ替わる。前日の下見で確認出来て
期待したトモエガモが1日で姿を消し、代りにキ
ンクロハジロが入っていた。但し、種、数ともに
今冬もカモ類は淋しい。カンムリカイツブリ、ハ
ジロカイツブリは例年通り群れで観察出来た。林
地では、クロジやルリビタキの成鳥♂が盛り上げ
てくれた。「待つほどに ようよいでしルリビタ
キ 青き羽色に光はじけて」 (石光 章)

12月7日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：30名 天気：晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツ
ブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
オオバン タシギ コゲラ モズ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ
ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビ
タキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ
カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (29種) (番
外：ドバト) 最初に目に入ったのは高圧線の鉄塔
でくつろぐアオサギだった。モズの声が聞こえる
中、芝生で採餌するハクセキレイを発見。青毛堀
川ではオオバンやコガモやカルガモの飛び立ちを
土手の上から観察。コガモの緑の翼鏡が綺麗だっ
た。園内に入ると、シジュウカラとメジロの混群
が枝移り。水遊び広場でセグロセキレイが採餌。
モミジバフウの並木で50羽士のカワラヒワが脇目
も振らずに採餌。黄色い羽に「ワッ、綺麗！」
の歓声。住宅予定地の敷地でジョウビタキ♀。参
加者から「可愛い！」の声。(長嶋宏之)

12月7日(日) 北本市 石戸宿

参加：56名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト ア
オサギ トビ ハイタカ ノスリ カワセミ コ
ゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブ
トガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ
ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ

ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ ビンズイ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (35種) 入口の橋の上から木にぶら下がっている鳥の巣を観察(帰って調べたらエナガの巣)。その後、エナガの群れが飛んで来て、十分に観察できた。カワセミの池の近くでヒッヒッの声。ルリビタキが、高い木の上の方で鳴いていた。エドヒガンザクラの前ではウソの声。オスを望遠鏡で観察。北口の梅林の木のでっぺんに珍しくピンズイ。この後もベニマシコのメス。後半は時間不足で残念。(吉原俊雄)

12月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 58名 天気: 晴

キジ オカヨシガモ ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン クサシギ ユリカモメ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ オオタカ ノスリ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (51種) (番外: ドバト) 民家園の蓮池にクサシギ。芝川沿いを歩けばカワセミが目の前を行ったり来たり。止まったところも観察できた。調節池内にはカンムリカイツブリ・ハジロカイツブリ・カイツブリの3種が泳いでいた。カモ類も多数。猛禽類ではミサゴやチュウヒが気持ちよさそうに飛んでいた。小鳥類ではウソを観察できた人も。久々の50種越え!! (須崎 聡)

12月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ ハイタカ オオタカ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ

(35種) 風が強く、土手での観察では、多くの鳥種は見られない。ゴルフ場内の公道でようやくコゲラ、シジュウカラ、脇の枯草にカシラダカなど常連の小鳥が観察でき、さらに期待のベニマシコも後半の組で鳴声を確認。猛禽類は6種見られた。

(茂木幸蔵)

12月14日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 44名 天気: 晴

ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト アオサギ オオバン イカルチドリ イソシギ カワセミ コゲラ アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ウソ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (35種) (番外: ドバト) 公園内では駅伝大会の影響のためか鳥の出が悪い。村国池でウソのオスをわずかな人が確認できた程度。後半は、元荒川でカワセミやイカルチドリ。テストコースではエナガ、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群やアカゲラが見られ、シメやツグミなどの冬鳥も現れた。

(長野誠治)

12月17日(水) 加須市 渡良瀬遊水地

参加: 26名 天気: 晴

コハクチョウ オカヨシガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ トモエガモ ホシハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン タゲリ セグロカモメ ミサゴ トビ チュウヒ ハイタカ ノスリ カワセミ アオゲラ ハヤブサ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ オオジュリン (46種) (番外: ドバト) カモ類はトモエガモ、カワアイサ、コハクチョウの飛翔を加えて12種も見られて幸せだった。後半西風が非常に強くなってコース途中で引き返した。しかし、チュウヒ、ミサゴ、ノスリにハヤブサ等の飛翔が良く見られて、出現鳥は46種にのぼった。

(玉井正晴)



●『見沼たんぼ見どころガイド 2015』で、「見沼たんぼの野鳥たち」を紹介



『見どころガイド』は、さいたま市都市局都市計画部みどり推進課見沼田圃政策推進室が、毎年発行しています。『2015』はB5版全 56 ページ。エリアマップ、散歩道コースなどの案内に続き、12 ページにわたり、当会がまとめた「見沼たんぼの野鳥たち」を掲載しています。

写真と解説：海老原美夫、探鳥会資料取りまとめ：山口芳邦、監修：楠見邦博・藤掛保司・山部直喜が担当しました。見沼たんぼを散歩する人たちがより一層、野鳥に関心を持つきっかけになることを願っています。さいたま市内の各区役所などで入手できます。

●会員の普及活動

2月15日(日)、坂戸市環境学館いずみ主催[高麗川の未来を考える講座]で、坂戸市浅羽ビオトープの野鳥観察を実施。坂口 稔・増尾 隆が指導。参加者 31名。

2月28日(土)、我孫子市手賀沼から鳥の博物館で開催された新ハイキングクラブ主催「鳥を観る・知る 13」で小林みどり・浅見

徹・工藤洋三・藤田敏恵・星進が指導。参加者 36名。

3月8日(日)、金勝山で開催された小川げんきプラザ主催「ジャムづくりとバードウォッチング」で千島康幸・松下光・青山紘一が指導。参加者 42名。

●会員数は

4月1日現在1,772人。

活動と予定

●3月の活動

3月14日(土)『しらこぼと』4月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

3月15日(日)役員会(司会：柴野耕一郎、当会担当の関東ブロック協議会準備・その他)

3月17日(火)武蔵丘陵森林公園第2回地域懇談会に出席(藤掛保司、小林みどり)。

3月23日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』4月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●5月の予定

5月2日(土) 普及部・編集部会。

5月9日(土) 6月号校正(午後4時から)。

5月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

5月17日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

「99%以上除菌」を謳った洗剤や消臭剤をよく見かける。100%と言わない正直さは評価するけれど…生き残ったわずかな菌、ふと見回せばライバルは全滅。おいおい、増え放題、やりたい放題じゃね?…でも、これでもいいの? 1種だけの暴走が出来ない多様性は重要だと思う。人間の世界も…(八方怒人)

しらこぼと 2015 年5月号(第 373 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社